

# 衆議院埼玉14区 苗村みつお



比例区梅村さんと街頭で語る苗村さん

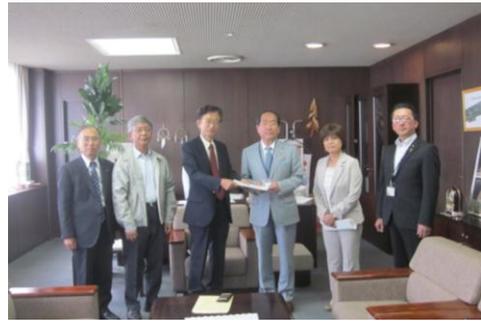


北関東比例区 塩川哲也



北関東比例区 梅村さえ子

# 市民の切実な願い！ 「予算要望書」提出



10月22日、日本共産党久喜市委員会と久喜市議団は来年度の予算編成に向け、市民要望を中心とした要望書を田中市長に提出しました。(写真) また、日本共産党衆議院埼玉13区予定候補の並木としえさんと、同14区の苗村みつお氏が同行し、市長と懇談をしました。

日本共産党は、予算要望に先立ち、市民にアンケートを実施しました。結果、その7割以上の方が合併前よりも生活が「苦しくなった」と回答。それは、国保税をはじめ、上下水道料金、農業集落排水使用料、また、介護保険料など公共料金の「軒並み値上げ」が大きく影響しています。

合併後の統一を理由にの住民負担増が、国からの住民税などの増税策と相まって市民の暮らしを直撃しているのです。アンケートにも「いったい何のための合併だったのか」という怒りの声さえ上がっています。市長追認の議会も監視役としての責任が大き

# 新久喜

発行  
日本共産党  
久喜市委員会  
久喜市南4-11-22  
Tel.22-2365

「生活が苦しくなった」が7割  
いったい何のための合併だったのか



コスモス

日本共産党久喜市委員会と市議団は、予算要望提出にあたって市民要望の実現のために「もう、政治を根本から変えるしかない」と決意を新たにしました。

## 冷静な外交こそ解決の道

尖閣問題で対話をする、どこでも連日のマスコミ報道に不安を感じており、「紛争や戦争の道だけはやめてほしい」との声が返ってきます。

日本共産党が「話し合いで解決をする」ように中国大使等に申入れをしていることを話すとどこでも対話はずみません。領土問題は街頭演説でも、熱心に耳を傾けてくれます。

9月議会は、2011年度の市政1年間の振り返り検証する議会でした。合併して2年目、しかも東日本大震災の直後が年度のスタートになる、というまさしく「自治体の真価が問われる」年でした。日本共産党市議団は、総務、福祉、建設、文教の4委員会各分野での市民要求を実現する立場から審議に参加しました。

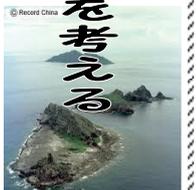
その中で、①合併時に1市3町で過去の借金返済の多くが終了時期を迎え、財源に余裕ができてきましたが、その有効活用がされな

## 共産党市議団 市民要望先送りの決算に反対

②他市町が子ども医療費の無料化を「中学3年まで」拡げていたのに対し、久喜市は財源的には可能だったのに「小学6年まで」を変えなかった。結果、子育て世帯の市外への流出につながったこと。③市の活性化に欠かせない商工・農業への振興策がほとんどなかったこと。④合併で職員を大幅に減らしたことが福祉、施設管理など市民生活に影響を及ぼしたと。⑤根拠法がないのに同和行政をつづけたこと。などが明らかとなり、認定に反対しました。

市議 杉野おさむ

## 領土問題を考える



尖閣諸島

最近のマスコミは、連日のように領土問題を利用して安撫強化や軍事増強へと国民を駆り立てているように思えてなりません。軍事力を強化しても解決するものではありません。

そもそも尖閣諸島は、1895年、当時の日本政府が編入手続きをとり、その後、古賀辰四郎さんが鯉節の工場を立ち上げるなど実効支配をしていました。

その後75年間も何の異議も唱えていなかった中国は、今になって「あの島は日清戦争によって不当に奪われた島だ」といつてきたのですが、日本が日清戦争で奪ったのは台湾と澎湖諸島であって、尖閣諸島はそこに入っていないのです。

日本共産党は、解決のため、歴代政府や民主党、自民党などの「領土問題は存在しない」という立場ではなく、堂々と中国や韓国、及び世界に日本の考えを主張すべきと考えています。勿論、過去の「日本軍国主義の侵略」に対する真剣な反省とともに……